



破砕ラインにのせられる不用携帯電話。97年度にNTTドコモ関西が集めただけでも63万台に上る東大阪市のリサイクル業者の工場



ごみ同然の物から宝の山。使われなくなった携帯電話が金の延べ板に姿を変えている。内部の基板に貴金属が含まれており、精錬の過程では銀や銅もとれる。郵政省によると、携帯電話の加入数は一九九六年末に千八百万台だったのが昨年末には三千九百万台に倍増。一方で、新モデルに買い替える人が多かったので、事業者側が電

リサイクル手品

7万台で1キロ

ケイタイから金

波を有効に利用できる機種への取り換えを推進したりしていることもあり、不用になる携帯電話が年々増えている。NTTドコモ関西では、二年前から不用になった携帯電話を業者に売却して、リサイクルしている。精錬している大分県の日鉱金属によると、普通の金鉱石はトン当たり千五百ポンドの金しか含んでいないの比べ、携帯電話などを焼却した原料はきちんと分別されているため、トン当たり二百ポンドも含んでいる。携帯電話などから作られた1キロの延べ板。約7万台の携帯電話から1キロの金が採れる。大分県佐賀岡町の精錬所で